



ほっとほっとタイムズー第2号ー

2026.6.30

井荻小学校 特別支援教育校内委員会

教育アドバイザー住谷陽子

天候のはっきりしない日々が続きます。皆様いかがお過ごしでしょうか。1 学期も終わりに近づいてきました。どんな1 学期でしたか？そして、どんな夏休みを考えていらっしゃるでしょうか？

運動会にはたくさんの感想をお寄せくださり、ありがとうございました。その中に次のような感想がありました。「今の時代、かけっこに順位をつけない学校が多い中、井荻小はかけっこも紅白でも順位や勝ち負けがありとても良かったです」。「順位をつけることに賛否がありますが、やはり順位があることで達成感が得られると感じました。過程が辛くても、その辛さは体験させる価値があります。無くすのではなく、価値を感じるような指導をしてもらえたらと思います」。このことについて、皆さんはどのようにお考えでしょうか。

「運動会が終わった後、教室に帰ったら、負けたチームの子たちが勝ち負けにこだわって悔しがっていた。そこで、それを話題にして少し話し合ったら『ふりかえり』のところに『来年こそは頑張る』と書いてくれた」と、ある先生が話していました。子どもたちは大人が考える以上に勝ち負けにこだわります。そして「負」の感情が苦手です。では「負」の感情を取り除くことが大事なのでしょうか。生きている限り、「負」の感情に出合わないでいることはできません。大事なのは「負」の感情とどう向き合い、どう乗り越えていくかということではないでしょうか。「自分は少年野球で、負けた相手を尊敬することを学びました」という先生もいました。

実は、失敗すること、負けることは成長するうえではとても大切な経験だと思います。いやな気持ちになるからこそ、次、どうすればよいかを考えて頑張る。そして成功した時、人は成長するのではないのでしょうか。一番避けたいのは「失敗したこと」「負けたこと」を相手のせいにして処理することです。自分の成長につながらないだけでなく、人間関係を悪くしてしまいます。

学校は（教室は）小さな社会です。思うようにならなかったり、いさかいになったりすることは多々あります。そんな時「だって〇〇君が・・・」と相手の非を言い立てたり、自分のことはさておき、集団の中でできていない子を見つけ大声で指摘したりすることがよくあります。そんな時、私は「人のことはいいから、自分はどうか考えてみよう、あなた自身が成長してくれることが大事だから」と伝えます。自分としっかり向き合わない限り、相手を蹴落としても自分が成長することにはならないからです。けれども、大人でもそうですが、失敗した自分を認めるのは辛いことです。だからこそ、その辛い気持ちに寄り添ってやるが必要なのです。悔しい思いを伝えてきたときはまず「辛かったね」と、子どもの気持ちに寄り添ってやりましょう。気持ちを共有してもらえただけで十分なこともたくさんあります。そのうえで、何を頑張ったのか、どうすればよかったのか一緒に考えてやるのが大事なのではないのでしょうか。わかってくれている人がいる、見守ってくれている人がいるというだけで子どもたちは元気が出るのです。何度も言うようですが、子どもたちにとって大事なものは、大人が問題を解決してあげることよりも子どもが「負」の感情と正しく向き合って乗り越えていくことであり、それを支えるのが大人の役目ではないかということです。 完全な人間なんていません。みんな違ってみんな不完全だからこそ親しみがわくのだと思います。「できること」にこだわらず「がんばっていること」を評価できる関係でいたいものだと思います。



これから長い夏休みに入ります。楽しいだけでなく、失敗も含め、たくさんの経験を積んで、9月、一回りも二回り大きくなった子どもたちに会えることを楽しみにしています。

1学期のほっとほっとティータイムを7月9日(木)3:30～計画しています。一緒にお喋りしましょう！